

[分類] 普及技術

[成果名] 移植水稻用初中期除草剤ガンガン 1 キロ粒剤、ベンケイ 1 キロ粒剤、クミスター豆つぶ 250、ウィナー 1 キロ粒剤 51、カチボシ 1 キロ粒剤 51、モーレツ 1 キロ粒剤、フルパワーMX 1 キロ粒剤、サラブレット K A I ジャンボ、ブルゼータ 1 キロ粒剤は水田雑草防除に有効である

[要約] 移植水稻用初中期除草剤 9 剤は、ノビエなどの一年生雑草から多年生雑草まで幅広く有効な成分を含み、効果的に水田雑草防除が可能である。

[担当] 農業試験場作物部、農業技術課

[部会] 作物部会

1 背景・ねらい

移植水稻用初中期除草剤 9 剤は、新規開発された有効成分フェノキサスルホンなどを含み、ノビエなどの一年生雑草及び多年生雑草に対する除草効果が確認できたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

- (1) 新規成分フェノキサスルホンを含有するガンガン 1 キロ粒剤を移植直後～ノビエ 3 葉期までに 1 kg/10a、ベンケイ 1 キロ粒剤を移植直後～ノビエ 3 葉期までに 1 kg/10a、クミスター豆つぶ 250 を移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期までに 0.25kg/10a 湛水散布することで効果的に水田一年生雑草及び多年生雑草の防除が可能である。
- (2) イプフェンカルバゾン含有するウィナー 1 キロ粒剤 51 を移植直後～ノビエ 2.5 葉期までに 1 kg/10a、カチボシ 1 キロ粒剤 51 を移植直後～ノビエ 2.5 葉期までに 1 kg/10a 湛水散布することで効果的に水田一年生雑草及び多年生雑草の防除が可能である。
- (3) 既存成分に替えて、より効果の高い成分が配合されたモーレツ 1 キロ粒剤を移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期までに 1 kg/10a、フルパワーMX 1 キロ粒剤を移植後 5 日～ノビエ 3.5 葉期までに 1 kg/10a、サラブレット K A I ジャンボを移植直後～ノビエ 2.5 葉期までに 40g パックを 10 個/10a 湛水散布することで効果的に水田一年生雑草及び多年生雑草の防除が可能である。
- (4) 同等の除草効果で成分の削減がなされたブルゼータ 1 キロ粒剤を移植直後～ノビエ 3 葉期までに 1 kg/10a 湛水散布することで効果的に水田一年生雑草及び多年生雑草の防除が可能である。

農薬登録内容

ガンガン 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン 0.5%、フェノキサスルホン 2.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況]（平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP—NET 確認）

作物名	適用雑草名	使用方法	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層剥離	湛水散布	移植直後～ノビエ 3 葉期（ただし、移植後 30 日まで）	1 kg	1 回

ベンケイ 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ピリミスルファン 0.5%、フェノキサスルホン 2.0%、ベンゾビスクロン 3.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ	湛水散布	移植直後～ノビエ 3 葉期 (ただし、移植後 30 日まで)	1 kg	1 回

クミスター豆つぶ 250

[一般名および成分含有量] フェノキサスルホン 8.0%、プロモブチド 36.0%、ベンスルフロンメチル 3.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	湛水散布又は湛水周縁散布	移植後 3 日～ノビエ 2.5 葉期 (ただし、移植後 30 日まで)	0.25kg	1 回

ウィナー 1 キロ粒剤 51

[一般名および成分含有量] イプフェンカルバゾン 2.5%、プロモブチド 9.0%、ベンスルフロンメチル 0.51%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ	湛水散布	砂壤土～埴土	移植直後～ノビエ 2.5 葉期 (ただし、移植後 30 日まで)	1 kg	1 回

カチボシ 1 キロ粒剤 5 1

[一般名および成分含有量] イプフェンカルバゾン 2.5%、テフリルトリオン 2.0%、ベンスルフロンメチル 0.51%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、アオミドロ、藻類による表層剥離	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ 2.5 葉期(ただし、移 植後 30 日まで)	1 kg	1 回

モーレツ 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ピラクロニル 2.0%、ベンゾビスクロン 2.0%、ベンフレセート 5.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、エゾノサヤヌカグサ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ	湛水散布	移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期(ただし、移 植後 30 日まで)	1 kg	1 回

フルパワーMX 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] ピラクロニル 2.0%、フルセトスルフロン 0.20%、メソトリオン 0.90%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、コウキヤガラ、アオミドロ、藻類による表層剥離	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植後 5 日～ノビエ 3.5 葉期(ただし、移 植後 30 日まで)	1 kg	1 回

サラブレッドKA I ジャンボ

[一般名および成分含有量] イマズスルフロン 2.25%、オキサジクロメホン 0.75%、ピラクロニル 5.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] 利用上の留意点を参照する。

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稲	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、コウキヤガラ、オモダカ、クログワイ	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	移植直後～ノビエ 2.5 葉期(ただし、移植後 30 日まで)	400g(40g×1 パック)	1 回

ブルゼータ 1 キロ粒剤

[一般名および成分含有量] プロピリスルフロロン 0.9%、ベンゾビスクロン 2.0%

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] この登録に係る使用方法では該当がない。

[対象作物に対する適用登録状況] (平成 27 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a 当たり 使用量	本剤の 使用回数
移植水稻	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ	湛水散布	砂壤土～ 埴土	移植直後～ノビエ 3葉期(ただし、移 植後 30 日まで)	1 kg	1 回

3 利用上の留意点

- (1) 使用上の留意事項は、「平成 28 年農作物病害虫・雑草防除基準(長野県)」の除草剤の使用方法(初中期除草剤)を参照する。
- (2) ガンガン 1 キロ粒剤、モーレツ 1 キロ粒剤は水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (3) ガンガン 1 キロ粒剤、ベンケイ 1 キロ粒剤、クミスター豆つぶ 250、ウィナー 1 キロ粒剤 5 1、カチボシ 1 キロ粒剤 5 1、モーレツ 1 キロ粒剤、フルパワーMX 1 キロ粒剤、サラブレッド K A I ジャンボは水産動植物(藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (4) メソトリオン含有剤のフルパワーMX 1 キロ粒剤、ベンゾビスクロン含有剤のベンケイ 1 キロ粒剤、モーレツ 1 キロ粒剤、ブルゼータ 1 キロ粒剤、テフリルトリオン含有剤のカチボシ 1 キロ粒剤 5 1 は本県育成の多収性専用品種「ふくおこし」、「ほそおもて」に対して薬害(白化～枯死)が生じることがある。また、(独)農研機構育成の一部の多収水稻品種にも薬害が生じることがある。(平成 23 年度普及に移す農業技術(技術情報)「水稻品種「ふくおこし」、「ほそおもて」の 4-HPPD 阻害型除草剤に対する感受性」参照。)

4 対象範囲

県下の水稻栽培地域 約 34,000ha

5 具体的データ

(1) ガンガン 1 キロ粒剤

ア 平成 24 年に農業試験場が実施した試験では、移植直後～ノビエ 3 葉期処理でノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた。オモダカ、クログワイも抑制した(表 1)。薬害は認められなかった。

表 1 ガンガン 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 24 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	ホタルイ	ウリカ ワ	オモダ カ	クログ ワイ	合計
ガンガン 1 キロ粒剤	+0 日(5/17) 1kg	0	0	0	0	4	8	1	t
	+14 日(5/31、ノビ エ 3 葉期) 1kg	4	0	0	0	t	1	0	t
(比較) トップガン L フロアブル	+5 日(5/22) 500ml	t	0	t	0	3	37	6	t
(比較) エリジャン乳 剤→ザーベックス D X 1 キロ粒剤	+0 日→+20 日 (5/17→6/6) 300ml→1 kg	0	0	0	T	1	19	3	t
無処理	—	137.8	0.1	5.9	16.4	1.2	0.5	4.8	166.7

a) 除草剤各処理区の数値は対無処理区比(%), 無処理区は乾物重(g/m²), 発生はあるものの、四捨五入して 0 になる場合を「t」として示した。

b) 処理時期の+は移植後日数。

c) コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

試験方法: 試験場所は南信農業試験場水田ほ場(標高 560m、洪積・砂壤土)。品種は「コシヒカリ」。中苗 3 本植(21.0 株/m²)。

代かきは 5 月 11 日、移植は 5 月 17 日。1 区 7.2 m²、2 区制。

調査方法: 移植 40 日後(6/28)に 50×50cm の枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 27 年に安曇野市の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草、ホタルイに対する除草効果は高く、初中期剤としての実用性が確認された（表 2）。薬害は認められなかった。

表 2 ガンガン 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 27 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量 (/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	マツバイ	合計
ガンガン 1 キロ粒剤	+0 日 (5/15)	1 kg	0	1	4	0	t
(比較)ワンオール S 1 キロ粒剤 ^{c)}	+0 日 (5/15)	1 kg	0	1	0	6	t
無処理	—	—	2.8	28.0	1.2	0.4	32.4

a)、b)は表 1 と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：松本農業改良普及センターで実施。試験場所は安曇野市豊科下鳥羽（標高 540m、沖積土・砂壤土）。稚苗、機械移植。入水は 5 月 6 日、代かきは 5 月 12 日、移植は 5 月 15 日。1 区 4a、反復なし。

調査方法：移植 31 日後 (6/15) に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(2) ベンケイ 1 キロ粒剤

ア 平成 25 年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ 3 葉期処理での除草効果は高かった（表 3）。薬害は認められなかった。

表 3 ベンケイ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 25 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量 (/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生広 葉 ^{c)}	ホタル イ	オモダ カ ^{d)}	クログワ イ ^{d)}	合計
ベンケイ 1 キロ粒剤	+0 日 (5/14) 1 kg	0	0	0	0	5	4	1
	+14 日 (5/28、ノビエ 3 葉 期) 1 kg	0	0	0	0	3	2	t
	(比較) トップガン L フロ アブル 500ml	+5 日 (5/19)	0	0	0	0	5	t
(比較) エリジャン乳剤→ マメット SM 1 キロ粒剤 300ml→1 kg	+0 日→+20 日 (5/14→6/3)	0	0	0	t	t	0	t
無処理	—	8.3	7.6	73.3	90.0	1.8	0.7	181.7

a)、b)は表 1 と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場（標高 340m、細粒グライ土・軽植土）。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植 (22.2/m²)。代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m²、2 区制。

調査方法：移植 40 日後 (6/23) に 50×50cm の枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 27 年に豊丘村の現地ほ場で実施した試験では、一年生雑草に高い除草効果が認められた（表 4）。薬害は認められなかった。

表 4 ベンケイ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 27 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量 (/10a)	一年生広葉	ホタルイ	合計
ベンケイ 1 キロ粒剤	+2 日 (5/30)	1 kg	0	0	0
(比較)バッチリジャンボ ^{c)}	+2 日 (5/30)	40g×10	0	0	0
無処理	—	—	4.3	0.4	4.7

a)、b)は表 1 と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：下伊那農業改良普及センターで実施。試験場所は豊丘村河野（標高 430m、中粗粒灰色低地土・砂壤土）。中苗、機械移植。入水は 4 月 23 日、代かきは 5 月 23 日、移植は 5 月 28 日。1 区 26a、反復なし。

調査方法：移植 34 日後 (7/2) に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(3) クミスター豆つぶ250

ア 平成26年に農業試験場で実施した試験では、移植後3日～ノビエ2.5葉期処理でノビエ等一年生雑草やホタルイに高い除草効果が認められた(表5)。薬害は認められなかった。

表5 クミスター豆つぶ250の雑草防除効果^{a)} (平成26年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	ホタルイ	(オモダ カ) ^{d)}	(クログ ワイ) ^{d)}	合計
クミスター豆つぶ250	+3日(5/17) 0.25kg	0	0	t	0	(21)	(1)	t
	+12日(5/26、 ノビエ2.5葉期) 1kg	0	0	0	0	(5)	(1)	0
(比較) トップガン Lフロアブル	+5日(6/19) 500ml	0	0	0	1	29	15	3
(比較) エリジャン 乳剤→マメットSM1 キロ粒剤	+0日→+20日 (5/14→6/3) 300ml→1kg	0	0	0	0	(15)	(12)	0
無処理	—	8.0	0.5	30.8	5.2	(14.0)	(6.0)	44.5

a)、b)は表1と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。オモダカ、クログワイは適用拡大申請中。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、細粒グライ土・軽植土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/m²)。代かきは5月9日、移植は5月14日。1区7.2m²、2区制。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成27年に大桑村の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草に高い除草効果が認められた(表6)。藻類の発生した圃場で拡散不足が発生し、一部で枯死症状が認められたが、収量には影響はなかった。

表6 クミスター豆つぶ250の雑草防除効果^{a)} (平成27年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量 (/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	合計	薬害
クミスター豆つぶ250	+3日 (6/2)	0.25kg	0	t	25	t	微
(比較) トップガンL250グ ラム ^{c)}	+3日 (6/2)	0.25kg	0	3	0	1	無
無処理	—	—	1.7	0.3	t	2.1	

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：木曾農業改良普及センターが実施。試験場所は大桑村殿下(標高505m、黒ボク土・埴壤土)。中苗、機械移植。入水は5月22日、代かきは5月27日、移植は5月30日。1区12a、反復なし。

調査方法：移植32日後(7/1)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(4) ウィナー1 キロ粒剤5 1

ア 平成23年に農業試験場が実施した試験では、移植直後～ノビエ2.5葉期処理でノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた。クログワイは抑制し、オモダカは残存した(表7)。薬害は認められなかった。

表7 ウィナー1 キロ粒剤5 1の雑草防除効果^{a)} (平成23年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	マツバイ	ホタルイ	オモダカ ^{d)}	クログ ワイ ^{d)}	合計
ウィナー1キロ粒剤5 1	+0日(5/14) 1kg	0	0	t	0	0	28	12	1
	+12日(5/26、 ノビエ2.5葉 期) 1kg	0	0	t	0	t	74	1	2
(比較)トップガンLフ ロアブル	+5日(5/19) 500ml	t	0	t	0	t	80	34	2
(比較)ソルネット1キ ロ粒剤→ザーバック ス	+0日→+20日 (5/14→6/3)	0	0	0	0	t	4	0	t
DX1キロ粒剤	1kg→1kg								
無処理	—	29.2	11.4	23.2	0.4	106.2	1.2	0.7	172.3

a)、b)は表1と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、細粒グライ土・軽埴土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/m²)。代かきは5月11日、移植は5月14日。1区7.2m²、2区制。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成27年に中野市の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草から、オモダカ等難防除雑草に高い除草効果が認められた(表8)。薬害は認められなかった。

表8 ウィナー1 キロ粒剤5 1の雑草防除効果^{a)} (平成27年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	オモダカ	合計
ウィナー1キロ粒剤5 1	+2日(6/4)	1kg	0	t	10	0	5
(比較)イネキング1キロ粒 剤 ^{c)}	+2日(6/4)	1kg	0	t	2	0	1
無処理	—	—	0.1	t	0.2	0.1	0.4

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：北信農業改良普及センターが実施。試験場所は中野市壁田(標高350m、沖積土・埴土)。中苗、機械移植。入水は5月30日、代かきは6月1日、移植は6月2日。1区30a、反復なし。

調査方法：移植34日後(7/6)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(5) カチボシ1キロ粒剤51

ア 平成27年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ2.5葉期処理でノビエ等一年生雑草からオモダカ、クログワイ等難防除雑草まで高い除草効果が認められた(表9)。薬害は認められなかった。

表9 カチボシ1キロ粒剤51の雑草防除効果^{a)} (平成27年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生広 葉 ^{c)}	ホタルイ	オモダ カ ^{d)}	クログワ イ ^{d)}	合計	
カチボシ1キロ粒剤51	+0日(5/14) 1kg	0	0	0	0	4	4	1	
	+12日 (5/26、ノビエ 2.5葉期) 1kg	0	0	0	0	3	1	t	
	(比較)トップガンLフロア ブル 500ml	+5日(5/19)	0	0	0	0	5	t	1
	(比較)エリジャン乳剤→ザ ーベックスDX1キロ粒剤 300ml→1kg	+0日→+20日 (5/14→6/3)	0	0	0	t	t	0	t
無処理	—	4.8	0.5	31.2	4.8	3.5	5.0	49.8	

a)、b)は表1と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高340m、細粒グライ土・軽埴土)。品種は「あきたこまち」。中苗3本植(22.2株/m²)。代かきは5月10日、移植は5月14日。1区7.2m²、2区制。

調査方法：移植40日後(6/23)に50×50cmの枠サンプリングにて調査した。

イ 平成27年中野市の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草から、オモダカ等難防除雑草に高い除草効果が認められた(表10)。薬害は認められなかった。

表10 カチボシ1キロ粒剤51の雑草防除効果^{a)} (平成27年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	オモダカ	合計
カチボシ1キロ粒剤51	+2日(6/4)	1kg	0	0	0	0	0
(比較)イネキング1キロ粒 剤 ^{c)}	+2日(6/4)	1kg	0	t	2	0	1
無処理	—	—	0.2	t	0.1	0.4	0.7

a)、b)は表1と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：北信農業改良普及センターが実施。試験場所は中野市壁田(標高350m、沖積土・埴土)。中苗、機械移植。入水は5月30日、代かきは6月1日、移植は6月2日。1区30a、反復なし。

調査方法：移植34日後(7/6)に50×50cmの枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は1カ所の調査を行った。

(6) モーレツ 1 キロ粒剤

ア 平成 25 年に農業試験場で実施した試験では、移植後 5 日～ノビエ 2.5 葉期処理で、ノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた(表 11)。薬害は認められなかった。

表 11 モーレツ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 25 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	ホタルイ	オモダカ ^{d)}	クログワ イ ^{d)}	合計
モーレツ 1 キロ粒剤	+ 5 日 (5/19) 1 kg	0	0	0	0	5	10	t
	+12 日 (5/26、ノビエ 2.5 葉期) 1 kg	0	0	0	0	3	6	t
	(比較) トップガン L フロ アブル 500ml	+ 5 日 (5/19)	0	0	0	0	5	t
(比較) エリジャン乳剤→ マメット SM 1 キロ粒剤 300ml→1 kg	+ 0 日→+20 日 (5/14→6/3)	0	0	0	t	(t)	(0)	t
無処理	—	8.3	7.6	73.3	90.0	(1.8)	(0.7)	179.2

a)、b)は表 1 と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高 340m、細粒グライ土・軽埴土)。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植(22.2/m²)。代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m²、2 区制。

調査方法：移植 40 日後(6/23)に 50×50cm の枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 27 年に豊丘村の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草とホタルイに高い除草効果が認められた(表 12)。薬害も認められなかった。

表 12 モーレツ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 27 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生 広葉	ホタルイ	合計
モーレツ 1 キロ粒剤	+ 5 日 (5/26)	1 kg	0	0	0	0
(比較) バッチリフロアブル ^{c)}	+ 4 日 (5/25)	500ml	0	0	0	0
無処理	—	—	8.4	0.4	1.5	10.3

a)、b)は表 1 と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：下伊那農業改良普及センターが実施。試験場所は豊丘村河野(標高 430m、中粗粒灰色低地土・砂壤土)。中苗、機械移植。入水は 5 月 16 日、代かきは 5 月 18 日、移植は 5 月 21 日。1 区 10.4a、反復なし。

調査方法：移植 37 日後(6/27)に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(7) フルパワーMX 1 キロ粒剤

ア 平成 24 年に農業試験場が実施した試験では、移植後 5 日～ノビエ 3.5 葉期処理でノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた。オモダカ等難防除雑草も抑制した(表 13)。薬害は認められなかった。

表 13 フルパワーMX 1 キロの雑草防除効果^{a)} (平成 24 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	マツ バイ	ホタル イ	オモダ カ	(クログ ワイ) ^{d)}	合計
フルパワーMX 1 キ ロ粒剤	+ 5 日 (5/19) 500ml	0	0	0	0	0	3	(0)	t
	+16(5/30、 ノビエ 3.5 葉期) 500ml	0	0	t	0	0	13	(13)	1
(比較) トップガンL フロアブル	+ 5 日 (5/19) 500ml	0	0	9	0	t	65	7	3
(比較) エリジャン乳 剤→マメット SM1 キ ロ粒剤	+ 0 日→+20 日 (5/14→6/3) 300ml→1 kg	0	0	0	0	t	(22)	(0)	t
無処理	—	20.7	2.7	28.0	0.2	85.1	1.1	(0.8)	137.8

a)、b)は表 1 と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。クログワイは適用拡大申請中。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場(標高 340m、細粒グライ土・軽植土)。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植(22.2 株/m²)。代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 m²、2 区制。

調査方法：移植 40 日後(6/23)に 50×50cm の枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 27 年に大桑村の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草には高い効果を示したが、ホタルイに対してはやや効果が劣った(表 14)。薬害は認められなかった。

表 14 フルパワーMX 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 27 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量(/10a)	ノビエ	一年生 広葉	ホタルイ	マツバイ	合計
フルパワーMX 1 キロ粒剤	+ 9 日 (5/19)	1 kg	1	7	37	0	2
(比較) トップガンLフロア ブル ^{c)}	+ 4 日 (5/14)	500ml	0	t	3	t	1
無処理	—	—	50.7	0.4	1.1	0.6	52.8

a)、b)は表 1 と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：木曾農業改良普及センターが実施。試験場所は大桑村野尻(標高 495m、褐色森林土・壤土)。中苗、機械移植。入水は 4 月 27 日、代かきは 5 月 7 日、移植は 5 月 10 日。1 区 13a、反復なし。

調査方法：処理 43 日後(6/22)に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(8) サラブレットK A I ジャンボ

ア 平成 25 年に農業試験場が実施した試験では、移植直後～ノビエ 2.5 葉期処理でノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた (表 15)。薬害は認められなかった。

表 15 サラブレットK A I ジャンボの雑草防除効果^{a)} (平成 25 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガ ヤツリ	一年生 広葉 ^{c)}	ホタルイ	ウリ カワ	オモダカ ^{d)}	クログワ イ ^{d)}	合計
サラブレットK A I ジャンボ	+ 0 日 (5/17) 40g×10	0	0	0	t	0	6	1	1
	+8 日 (5/31、ノビ エ 2.5 葉期) 40g×10	0	0	0	t	0	1	2	1
(比較) トップガ ンLフロアブル	+ 5 日 (5/22) 500ml	0	0	0	0	3	1	2	1
(比較) エリジャ ン乳剤→ザーベッ クスDX 1 キロ粒 剤	+ 0 日→+20 日 (5/17→6/6) 300ml→1 kg	0	0	0	t	1	19	3	t
無処理	—	288.8	0.5	39.6	36.7	1.4	12.6	11.3	390.9

a)、b)は表 1 と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋込試験。

試験方法：試験場所は南信農業試験場水田ほ場 (標高 560m、洪積・砂壤土)。品種は「コシヒカリ」。中苗 3 本植 (21.0 株/m²)。代かきは 5 月 20 日、移植は 5 月 23 日。1 区 7.2 m²、2 区制。

調査方法：移植 40 日後 (7/2) に 50×50cm の枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 27 年に豊丘村の現地ほ場で実施した試験では、ノビエ等一年生雑草、ホタルイに対し除草効果が認められた。(表 16)。薬害は認められなかった。

表 16 サラブレットK A I ジャンボの雑草防除効果^{a)} (平成 27 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量 (/10a)	ノビエ	一年生広葉	ホタルイ	合計
サラブレットK A I ジャンボ	+ 2 日 (5/23)	40g×10	0	0	0	0
(比較) パッチリフロアブル ^{c)}	+ 4 日 (5/25)	500ml	0	0	0	0
無処理	—	—	0.6	3.0	0.3	3.9

a)、b)は表 1 と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：下伊那農業改良普及センターで実施。試験場所は豊丘村河野 (標高 430m、中粗粒灰色低地土・砂壤土)。中苗、機械移植。入水は 5 月 16 日、代かきは 5 月 18 日、移植は 5 月 21 日。1 区 14.3a、反復なし。

調査方法：処理 32 日後 (6/22) に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

(9) ブルゼータ 1 キロ粒剤

ア 平成 27 年に農業試験場で実施した試験では、移植直後～ノビエ 3 葉期処理でノビエ等一年生雑草から多年生雑草まで高い除草効果が認められた (表 17)。薬害は認められなかった。

表 17 ブルゼータ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 27 年、農業試験場)

除草剤名	処理時期 ^{b)} 処理量(/10a)	ノビエ	タマガヤ ツリ	一年生 広葉 ^{c)}	ホタルイ	オモダ カ ^{d)}	クログワ イ ^{d)}	合計
ブルゼータ 1 キロ粒剤	+ 0 日 (5/14) 1 kg	0	0	0	0	4	8	1
	+14 日 (5/28、ノビエ 3 葉期) 1 kg	0	0	0	0	3	2	t
(比較) トップガン L フロア ブル	+ 5 日 (5/19) 500ml	0	0	0	0	5	t	1
(比較) エリジャン乳剤→ザ ーバックス DX 1 キロ粒剤	+ 0 日→+20 日 (5/14→6/3) 300ml→1 kg	0	0	0	t	t	0	t
無処理	—	4.8	0.5	31.2	4.8	3.5	5.0	49.8

a)、b)は表 1 と同じ。

c)コナギ、アゼナ、ミゾハコベ、キカシグサの合計。

d)塊茎埋め込み試験。

試験方法：試験場所は農業試験場水田ほ場 (標高 340m、細粒グライ土・軽塩土)。品種は「あきたこまち」。中苗 3 本植 (22.2 株/㎡)。代かきは 5 月 10 日、移植は 5 月 14 日。1 区 7.2 ㎡、2 区制。

調査方法：移植 40 日後 (6/23) に 50×50cm の枠サンプリングにて調査した。

イ 平成 27 年に諏訪市の現地ほ場で実施した試験では、オモダカはやや残存したが、初中期剤としての除草効果は認められた (表 18)。薬害は認められなかった。

表 18 ブルゼータ 1 キロ粒剤の雑草防除効果^{a)} (平成 27 年、農業技術課)

除草剤名	処理時期 ^{b)}	処理量(/10a)	ノビエ	オモダカ	合計
ブルゼータ 1 キロ粒剤	+ 6 日 (5/20)	1kg	0	20	20
(比較) ゲットスターフロア ブル ^{c)}	+ 5 日 (5/25)	500ml	t	69	65
無処理	—	—	0.1	2.5	2.6

a)、b)は表 1 と同じ。

c)比較は試験区の隣接ほ場で実施。

試験方法：諏訪農業改良普及センターが実施。試験場所は諏訪市豊田上野 (標高 928m、黒ボク土・壤土)。中苗、機械移植。入水は 4 月 25 日、代かきは 5 月 9 日、移植は 5 月 14 日。1 区 13a、反復なし。

調査方法：移植 28 日後 (6/11) に 50×50cm の枠サンプリングにて、処理区は複数カ所、無処理区は 1 カ所の調査を行った。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果試験、平成 23～27 年度 (2010～2015 年度)、協力研究